

マナーのツボ

義理チョコ 職場への贈り方



バレンタインデーに職場でチョコレートを贈る方は多いでしょう。日ごろの感謝や円滑なコミュニケーションを目的とした「義理チョコ」「感謝チョコ」などと呼ばれています。

ここには2つの問題があるようです。まずは返礼の問題。贈られる側の中には、もらってうれしい反面、ホワイトデーのお返しを面倒に感じる人がいます。「お返し不要」と言われても、気持ちをお返しにはできず、義務感にかられてしまうとか。お返しを期待して贈ったわけではないのに、義務感を抱かれるなんて残念です。

ただ、甘いお菓子は仕事の合間

「男性も女性も」がスマート

に食べるトリフレッッシュするので、喜ばれる差し入れです。バレンタインとしてではなく、差し入れとして皆が立ち寄れるスペースに「男性も女性もどうぞ」と置いて、気軽に食べてもらうのがスマートかもしれません。

もう一つは贈る側の問題。連名で贈るとき、内心、贈りたいとは思っていない人もいます。毎年のことだからと一方的にお金を徴収されて戸惑う新人女性の話を聞くと、たとえ少額でも不満や不信が生まれる贈答は考えものです。

押しつけがましくならないよう振る舞うのもマナー。円滑な人間関係のためよかれと思っても、相手の負担になることがあります。協調性を大切にしたいつもりでも、相手が強制と感じたら本末転倒。義理チョコというネーミングに興ざめする方も多いようですよ。

(ビジネスマナー講師

美月 あきこ)